



待ちに待った秋シーズン初戦。甲南大学は昨年涙を飲んだ宿敵である。雪辱を果たし、第2戦以降につなげたい。

第1Q

阪大 K#8 橋野のキックにより試合開始。DL#97 上田の QB サックなどで早々に甲南をパントに追い込むもパンターのランにより攻撃権を更新されてしまう。その後の D#では、LB#8 橋野のロスタックルなど、阪大 D#の好プレーにより 4thdown で甲南大に FG を選択させる。甲南大はキック失敗し、攻撃権が阪大へ移る。続く阪大 O#では RB#21 和田がランでゲインを重ねるも攻めきれずパントを選択。その後も一進一退の攻防を繰り返して、得点は動かぬまま 0-0 で第1Q 終了。



第2Q



甲南大による自陣 21yds からの攻撃により開始した第2Qでは、開始まもなく鋭いパスによる TD で先制点を奪われる。甲南大のキックにより試合再開。R#4 大矢の 20yds リターンを皮切りに、1年生ながら試合に出場する QB#17 高田から WR#13 柴山への 21yds パスや WR#4 大矢への 17yds パス成功により阪大 O#は敵陣 20yds 付近まで着実にドライブし、K#8 橋野による FG を成功させる。直後の甲南大 O#では、阪大 D#が攻撃権の更新を許さずパントに追い込む。攻守交替。続く阪大 O#はパスを中心にゲインを重ね、前半残り 15 秒で K#8 橋野が 30yds の FG を決める。6-7 で前半終了。

第3Q

何とか追いつきたい第3Q。R#21 和田のリターンにより自陣 36yds から攻撃を開始すると RB#21 和田、RB#29 豊田の活躍により敵陣深くまで攻め入る好調な滑り出しを見せる。4thdown で3度目の FG を選択すると K#8 橋野の右足から放たれたボールは正確に ゴールポスト を捉え、9-7 と逆転。しかし、続く甲南大の攻撃では、DL#2 木村の QB サックなど阪大 D#陣が粘りを見せるもランやパスを織り交ぜた多彩な攻撃に翻弄され、第3Q 残り 45 秒で TD パスを許してしまう。9-14。僅かに及ばないまま第3Q 終了。



第4Q



第4Q開始直後、甲南大の攻撃でいきなり67ydsの独走TDを許してしまう。一本取り返したい阪大O#だが、焦りからかフレッシュを獲得することなくP#73齋藤のパンツで攻守交替。続く甲南大の攻撃で、阪大D#は流れを掴み切れずに17ydsランの大幅ゲインでフレッシュを許すと、重ねて67ydsのランを止めることができずに甲南大TD。甲南大のキックをR#和田が20ydsリターンし試合再開。阪大

O#は1stdownでQB#17高田からWR#13柴山のパスを成功させるも、その後相手D#の集まりが早く、思うようにゲインが伸びない。4thdownでギャブルを試み、QB#17高田からWR#4大矢へのパスは成功するもフレッシュには至らず、攻守交替。これにより甲南大に自陣28ydsからの攻撃を許してしまう。ランを中心にゲインを重ねる甲南大O#にDL#2木村が相手LTを振り切ったの強烈なQBサックを決めるなど、阪大D#は奮戦するも自陣深くまで攻め込まれFGを決められる。その後の攻撃で阪大はパスインターセプトされ攻撃権を保持することが出来ず、攻守交替により再び自陣からの1stdownを許す苦しい展開。阪大D#はランとパスを織り交ぜた甲南大の攻撃に吞まれ、パスによるTDを許してしまう。TFPのキックは失敗したものの9-37。試合終了までは残り1分58秒という厳しい戦況である。続く攻撃で阪大O#は果敢にロングパスを選択。パスインターセプトされ、攻守交替を許すもその後の甲南大の攻撃でQBがファンブルしたボールをDL#97上田がすかさずファンブルリカバーし、攻撃権は再び阪大O#に。しかし、QB#17高田からWR#13柴山へ約20ydsのロングパスを試みるも再びパスインターセプトされ、続く甲南大O#では勢いそのままにTDパスを成功される。9-44。試合終了まで残り37秒。阪大はO#、D#ともに最後の1秒まで奮励したが、無念にもこれ以上点差が縮まることはなかった。

初戦を白星で飾ることはできなかった。しかし、この悔しさを糧としてさらなる飛躍をすると私たちは誓う。俯いている暇はない。次節の京産大は昨年僅かに及ばず惜敗した相手である。日々ベストを更新し、限界を超え続ける。勝利の日まで。Excite

